

オレンジ Orange ゆうき Vol. 5

【発行】
結城市認知症地域支援推進員
結城市地域ケア推進係
令和5年3月1日

認知症地域支援推進員って、ご存知ですか？
認知症地域支援推進員は、認知症の方ができる限り住み慣れた環境で暮らせるように、医療機関や介護サービス事業所、地域の支援機関をつなぎ、認知症の人やご家族への支援を行います。
「認知症について、どうしたらいいか悩んでいる・・・」
一人で抱え込まず、認知症地域支援推進員にご相談ください！

「Orangeゆうき」は、
認知症について皆様に知っていただくことを目的とした結城市独自の広報紙です！



結城市包括マスコット：ヒデゲッタ



Dementia Friendly City

～
認知症の人にとって、
やさしいまちになるように
～



認知症地域支援推進員は、
「包括」「市役所」にあります！

東部包括
[45-5501]

西部包括
[45-8222]

南部包括
[54-6477]



認知症は、多くの人にとって身近なものとなっています。
今回は、認知症と診断を受けたご本人・ご家族が自らの言葉で語り、
認知症になっても前を向いて暮らすことが出来る姿を発信したいと思います。

《山中初枝さん・睦子さんへ、インタビュー》



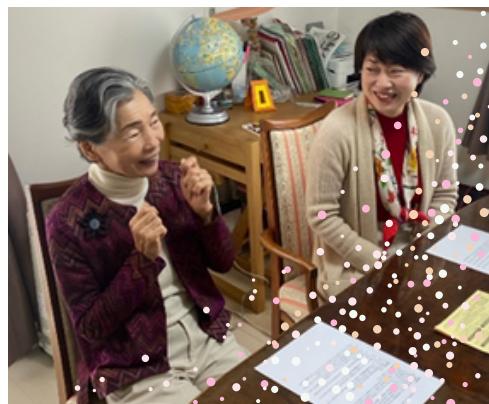
Q.認知症専門の病院へ受診した当時、ご自身の中で心配事がありましたか？

A.初枝さん（ご本人）ありませんでした。お鍋を火にかけておいて「気をつけなければいけない」と一瞬思っても、すーっと飛んで忘れてしまう。紙に書いた方が安全と思っても、書いたことも忘れてしまう。脳の中がふわっとした感じでした。今までと違う自分にも、不安はありませんでした。

Q.介護サービスの利用をはじめ、何か変わりましたか？

A.初枝さん（ご本人）周りの人に「認知症だよ」と笑われた事があり、そこからなんとなく自信がなくなって、その事が何よりも一番ショックでした。ガクンと落ち込みました。最近、デイサービスに行くようになり、色々な方がいるので楽しいです。何か言われても良いと受け入れてきました。

A.睦子さん（ご家族）母が変わりました。前の日に自分で洋服を用意して、一生懸命オシャレをしようという気持ちになりました。今までは行く所が病院くらいでしたが、カレンダーの前を10分程行ったり来たりしていました。薬を自分で作るのにも5時間くらいかかっていた。今はデイサービスの曜日も覚えており、薬もいつの間にか作ってあります。以前は不安だから間違えてはいけないと思っていたのだと思います。人と関わる事が大事だなと思いました。昔の感覚に少し戻ってきたような気がします。



初枝さん・睦子さん

Q.認知症の診断を受けても初枝さんの変わらない所や変わらないでいて欲しいところはありますか？

A.睦子さん（ご家族）オシャレする場所が出来たので、それがすごく楽しそうです。昔からオシャレだったのに、出かける所がなくそういうことがなくなってしまったのが、復活しました。楽しそうにしているのが良いです。外に出るようになり、話題性があるので、ネガティブな言葉がなくなり、家族皆その方が幸せです。楽しいとか嬉しいという感情が大事だと思います。若返っている感じがします。

誰もが暮らしやすい結城市をつくっていくため、皆さんと小さなことからコツコツと力を合わせて取り組んでいけたらと思います！（確）

誰もがなりうる認知症。認知症になっても安心して暮らせる街づくりや一人一人の悩みに寄り添った支援をしていきます（仲）



【Orange(オレンジ)ゆうき】

発行責任者/結城市地域ケア推進係 編集/結城市認知症地域支援推進員
〒307-8501 茨城県結城市中央町二丁目3番地 地域ケア推進係
TEL 0296-34-0324/FAX 0296-20-8767/メール kaigohoken@city.yuki.lg.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。

